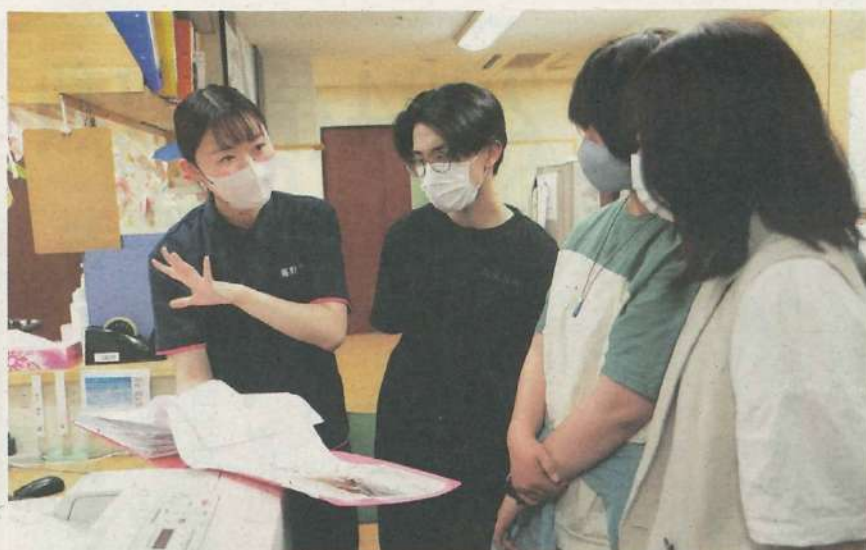


大学生が交流、介護の学び深め

栄光の杜企画の日の出町ツアー



学生に仕事内容を伝える藤野さん

社会福祉を学ぶ白梅学園大学（小平市）子ども学部家族・地域支援学科の1年生8人が4月26日、日の出町を訪れ、観光と介護施設の見学をした。新入生の同士の交流と、介護現場での学びを目的とした企画で、参加した教員・学生からは有意義な感想が聞かれた。

学生への求人活動などで同大学と交流のある特別養護老人ホーム

栄光の杜（同町平井）が企画。大学に提案し、新たな試みとして受け入れられた。

拜島駅に集合した一行は法人のバスで鹿野大仏、さかな園、JA直売所など町内の観光スポットを訪問。買い物や飲食を楽しんだ後、地域包括支援センター、町社会福祉協議会で高齢者支援の取り組みを聞き、最後に栄光の杜へ。若手職員が施設内を案内し、仕事のやりがいも伝えた。

同町平井出身で入職2年目の藤野愛弓さんは、高齢者・障害者施

設で働く母親にあって、介護の世界に入った。「利用者さん一人ひとりの特徴を把握するまでがすごく大変だったが、利用者さんのちょっとした笑顔や言葉から元気をもらえ」と、仕事の大変さと魅力を伝えた。

勤務9年目の安永光汰さんは「大変な仕事だが、休日に趣味のドライブに出かけると、また頑張ろうという気持ちになる」とプライベートの過ごし方を紹介。介護福祉士・社会福祉士・ケアマネージャーの3資格を持つ

ち、生活相談員歴14年目の木下敦さんは「生活相談員は介護職の花形。皆さんも目指してほしい」と資格取得のメリットを説いた。

学生らは時折うなずきながら、熱心に3人の話を聞いていた。

発案者の一人で副施設長の田村泰志さんは「町を知り、介護現場を知ってほしいと企画した。学生と先生の懇親が深まり、私たち職員も人に伝えることで成長できたと思う」と取り組みの成果を語った。

（伊藤）